

令和3年7月8日

No.66号

山形市立第四小学校
校長 日高 伸 哉

<児童数 196名>

TEL 623-6019

～7/6(火) 全校朝会・校長講話より～

“サクラマス”と「ヤマメ」

いのちの強さ・自然の営みに学ぶ

今週6日火曜日に、全校朝会（校長講話）を行いました。梅雨の中ではありますが、時折、青空がのぞく初夏の朝です。ミュージックメディア委員会の明るくハツラツとした校内放送が流れ、一日がスタートいたしました。

今回の講話は、いのちの強さ、たくましさについて、自然の営みから学ぶをテーマにお話をしたところです。以下その様子になります。



今回も、2回目に引き続き「いちょうの子」の2つ目のめあて「…たくましい子ども」に、大きく関係するお話です。

皆さん、山形県の花は知っていますね。そうです。「紅花」ですね。では、山形県の木は？そう、「さくらんぼ！」ですね。さらに、山形県の魚は？「・・・。」

つぶやきが聞こえてきました。・・・「サクラマス」ですね。平成4年3月9日に制定されました。

今日は、その「サクラマス」と「ヤマメ」のお話をします。

ヤマメは、20cm～30cmくらいの小さい川魚です。一方、サクラマスは鮭のように大きくて60cmくらいあります。海から川へのぼってきます。体重で比べると、サクラマスはヤマメの20倍から30倍くらいあります。

実は、サクラマスは、もともとはヤマメなんです。もともとと同じ親から生まれた魚なんですね。川で一生過ごすのがヤマメ、海に出て戻ってくるのがサクラマスと呼ばれます。どちらも大切なお魚ですし、どちらも大切な「いのち」です。ところで、海にゆく「ヤマメ」は、いったいどんなヤマメなんでしょうか？

川で生まれて、餌をとるときに、小さなお魚は、大きな魚に負けて餌をたくさん食べられません。大きな魚は、流れが速くて餌がいっぱいいるところにもいけるので、ますます体が大きくなります。ということは、この大きな魚がサクラマスになるのでしょ。・・・

・・・・・・実は、そうではないようなのです。

小さなお魚は、このままでは餌をとれずに死んでしまうので、勇気を出して、敵がいっぱいいるけど、餌もたくさんある海に向かうというのです。そして、大きな海で泳いでいる内に、体も大きくなってサクラマスになるのです。やがて、立派に成長したサクラマスは、自分が生まれた川に戻ってくるんですね。

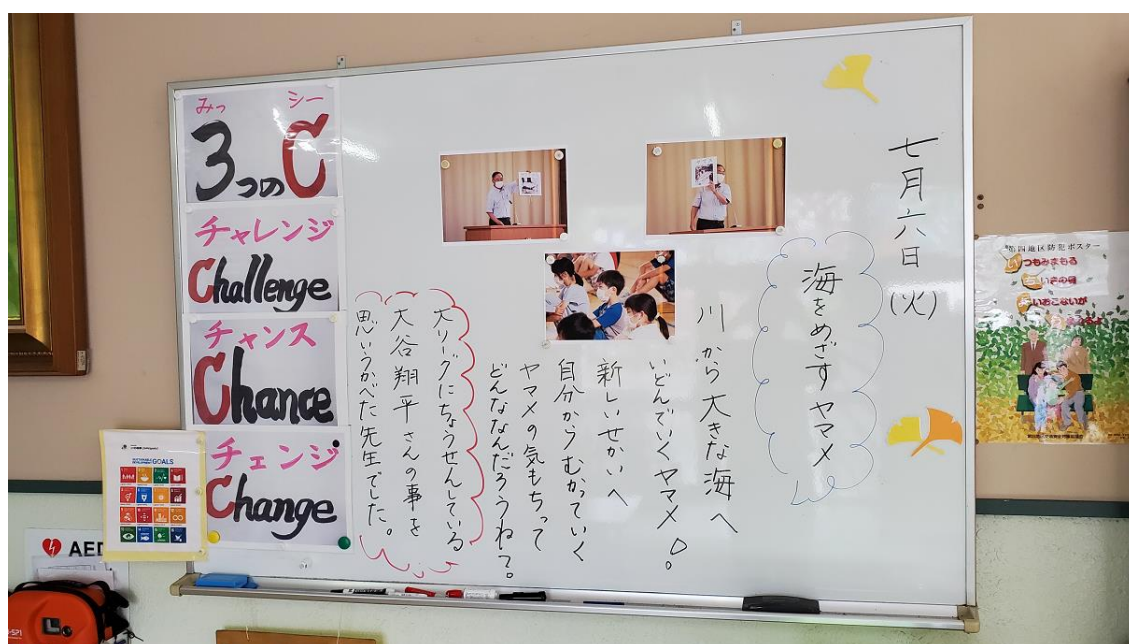
生まれたばかりの頃は、生存競争^{せいぞんきょうそう}に負けたかのような小さなお魚が大きな海に出て、たくさんの敵との戦いをくぐり抜けて生き残り、大きなサクラマスになって返ってくるのです。

何だか、すごいと思いませんか。自然の営みに学ぶことがたくさんあるような気がしてなりません。皆さんは、どう感じますか。

大きな魚に餌をとられてあきらめていたら、サクラマスにはなれなかったですね。負けたと思ってあきらめたら、そこで終わりだったんです。でも、そうじゃなかった。校長先生は、小さなヤマメが大きな海に向かったときのような勇気を出すと、いつかきっと大きく成長した自分に気づくことができると思うのです。サクラマスのような勇気を持ってゆきたいと思うのです。

そういう「あきらめない・ねばり強い」一つ一つの勇気が、チャレンジを生み出し「たくましい子」に繋がってゆくと思うのです。

自然の営み、いのちの強さから感じる想いです。・・・・・・



全校朝会での話を、正面玄関を入れて左側の情報掲示板（ホワイトボード）へ、教務の浩二先生が、ほぼリアルタイムで書き込んでくれました。

海をめざすヤマメ・・・・・・新しい世かいへ・・・・・・ヤマメの気持ち・・・・・・。